

2021 年度 事業報告

事業目標

1. 看護学生・大学院生並びに看護師等に対する奨学金の貸付事業を円滑に運営する
2. 看護教育・看護に関する研究・研修会・講演会等への助成事業を推進する
3. 会員の確保と広報活動を行う
4. 看護教育施設の図書教材の整備を支援する
5. 看護関係刊行本の復刻版、会報の発行を継続する
6. 災害看護ボランティアのシステムづくりを推進する

1. 看護学生・大学院生並びに看護師等に対する奨学金の貸付事業を円滑に運営する

1) 看護学生・看護師等への奨学資金・奨学金貸与事業

(1) 貸与計画と実際 (予算 29,040,000 円 貸与総額 22,460,000 円)

	対象者		貸 与 枠	応 募 者	貸 与 者	金 額	備 考
奨 学 資 金	看護学生	予 算 額				19,440,000	360,000/年×53 名 180,000/年×1 名 ・新規貸与者前期退学 1 名
		結 果	54	前 期	54	9,720,000	
				後 期	53	9,540,000	
		内 新 規	20	20	20 (19)	7,020,000	
		小 計 54				19,260,000	
	大学院生	予 算 額				6,000,000	
		結 果	6	2	2	2,000,000	
奨 学 金	認定看護師 課程履修者	予 算 額				2,400,000	
		結 果	4	0	0	0	
	助産師学生	予 算 額				1,200,000	
		結 果	2	2	2	1,200,000	
貸与枠合計			66		58	22,460,000	

(2) 奨学資金・奨学金の返還実績 (2022 年 3 月 31 日現在)

返還対象		返還額
看護学生	57 名	21,250,000
大学院生	10 名	2,628,000
認定看護師	1 名	330,000
助産師学生	2 名	660,000
合計	70 名	24,868,000

2. 看護教育・看護に関する研究・研修会・講演会等への助成事業を推進する

1) 2021 年度 看護研究・院内看護研究・看護研修会・講演会・特別講演会助成事業

(1) 助成金交付の実績

2021 年度 看護研究・院内看護研究・看護研修会・講演会等助成事業 予算 7,600,000 円 助成総件数 32 件 助成総額 2,962,000 円			
1	看護研究 予算枠 7 件 助成件数 0 助成総額 0		
2	院内看護研究 予算枠 12 件 助成件数 13 件 助成総額 1,260,000 円	小川・深谷・武蔵野・秦野 長野・諏訪・安曇野・飯山 広島原爆・福岡・今津・嘉麻・大分	
3	看護研修会 予算枠 32 件 助成件数 14 件 助成総額 1,257,000 円	ブロック (5)	中部 (2)・九州 (3)
		支部 (2)	兵庫県・長崎県
		施設 (7)	北見・大森・長野・安曇野・大阪 沖縄・副学校長会
4	講演会 予算枠 15 件 助成件数 5 件 助成総額 445,000 円	支部 (1)	群馬県
		施設 (4)	釧路・名一・大阪・広島原爆
5	特別講演会 予算枠 2 件 助成件数 0 件 総額 0 円		
	助成総額 2,962,000 円		

3. 会員の確保と広報活動を行う

1) 同方会会員の確保

(1) 新入会員・未加入者への働きかけを積極的に行い会費の増収を図る

- (2) 会員の目標数 25,700 人（賛助会員 150 人含）
24,811 人（正会員 24,660 人、賛助会員 151 人）達成率 96.54%
- 2) 同方会の広報活動
会報を通じて赤十字の広報活動に協力する
4. 看護教育施設の図書教材の整備を支援する
- 1) 赤十字教育施設 4 校へ助成 $4 \text{ 校} \times 100,000 \text{ 円} = 400,000 \text{ 円}$
日本赤十字広島看護大学、日本赤十字豊田看護大学
日本赤十字九州国際看護大学、日本赤十字秋田看護大学
5. 看護関係刊行本の復刻版、会報の発行を継続する
- 1) 機関紙「同方」の拡大復刻版の発行と配布及び保存
(1) 拡大復刻版
「同方」昭和 9 年 9 月号・10 月号・11 月号・12 月号の発行
発行日 2022 年 3 月
発行部数 540 部 印刷代・配送料 797,500 円（予算：1,000,000 円）
(2) 機関紙「会報」のデータ化による保管
今年度は行っていないため、数年かけてデータ化を行う
- 2) 「同方會會報」第 56 号発行
頁数 36 頁 発行部数 31,500 部
発行日 2022 年 1 月 20 日
印刷代・配送料 合計 2,498,276 円（予算：2,500,000 円）
6. 災害看護ボランティアのシステムづくりを推進する
- 1) 2019 年度災害看護ボランティアシステムモデル事業の評価を同方会各県支部長と共有する
*新型コロナウイルス感染症拡大により支部長会は開催せず、書面報告とした
*9 月赤十字医療施設看護部長会役員会、11 月赤十字医療施設看護部長会にて、災害看護ボランティアシステムづくりの概要とモデル事業の結果を報告し、意見交換した
- 2) 2022 年度災害看護ボランティアシステムが全国に導入可能となるよう赤十字支部の事業内容を構築する
*新型コロナウイルス感染症が収束せず、同方会での活動自粛が継続しているため、本社関係部署との検討は行っていない
*全国展開にむけての活動は来年度に延期する
- 3) プロジェクト会議は開催できなかったため、2021 年度活動報告と 2022 年度活動計画案について書面審議を行い、全員から同意の回答を得た
7. 支部事業への協力 73,200 円
殉職救護員追悼式に供花（4 支部）
北海道支部（20,000 円）、静岡県支部（20,000 円）、埼玉県支部（13,200 円）、千葉県支部（20,000 円）
以上 4 支部

8. 会員等に関する福利・厚生

1) 慶弔基準による祝電、弔電等

(1) 祝電

春の叙勲者 5名、秋の叙勲者 5名

看護の日 フローレンス・ナイチンゲール記章既受章者 15名

フローレンス・ナイチンゲール記章受章者 2名

アンリー・デュナン記章受章者 1名

(2) 弔電

フローレンス・ナイチンゲール記章既受章者 2名

2) 教育施設への祝電等

(1) 入学式 入学式を行った赤十字教育施設に祝電を発送した (17 件)

(2) 卒業式 全赤十字教育施設に祝辞を発送した (19 件)

(3) 戴帽式・宣誓式を行った赤十字看護専門学校に祝電を発送した (11 件)

(4) 長野赤十字看護専門学校閉校記念式典出席 (理事長)

10. 本会の管理運営等

1) 支部長交代(2021 年度交代)

東京都 若林 稲美 氏 → 新任 川岸真由美 氏

長野県 ミルズしげ子氏 → 新任 中澤みな子 氏

静岡県 原 弘子 氏 → 新任 伊藤 宏子 氏

愛知県 伊藤 明子 氏 → 新任 永田ゆかり 氏

岐阜県 上野 博子 氏 → 新任 都竹智香子 氏

京都府 田中千代美 氏 → 新任 中島 路子 氏

奈良県 松本 淳子 氏 → 新任 涌田真希子 氏

和歌山県 高岸 壽美 氏 → 新任 東田 裕子 氏

徳島県 庄野 泰乃 氏 → 新任 庄野まゆみ 氏

熊本県 東 智子 氏 → 新任 盛川恵美子 氏

鹿児島県 水垂 瑞枝 氏 → 新任 米山 智子 氏

2) 会議と開催回数・日時・場所

評議員会 1 回

2021 年 6 月 15 日 (火) 書面審議

理事会 3 回

2021 年 4 月 28 日 (水) web 会議 (通常理事会)

2021 年 8 月 4 日 (水) web 会議 (臨時理事会)

2022 年 3 月 16 日 (水) web 会議 (通常理事会)

常務理事会 11 回

web 会議 2021 年 4 月 22 日、5 月 20 日、6 月 3 日、7 月 22 日、9 月 27 日
10 月 18 日、11 月 15 日、12 月 16 日

2022 年 1 月 24 日、3 月 3 日、3 月 31 日

支部長会

2021 年 6 月 30 日 (水) 書面による報告

3) 本会の監事による業務・会計監査実施 1 回

2021 年 4 月 16 日（金）

事業運営、会計とも問題ないことを確認した

4) 公認会計士 金木修二氏による経理監査実施 2 回

2021 年 4 月 12 日（月）

2021 年 12 月 6 日（月）

適切に会計処理されていることを確認した

5) 事業部・財務部に属する各委員会概要

(1) 部会・委員会開催回数

新型コロナウイルス感染拡大により、委員会の回数を縮小するとともに、web 等で開催した。

財務委員会 6 回、看護研究・院内看護研究・看護研修会・講演会助成委員会 5 回、看護研究選考特別委員会 0 回、奨学資金・奨学金委員会 8 回、会報編集委員会 6 回、会員増強委員会 6 回、災害看護ボランティアシステム検討委員会 1 回（書面審議）

(2) 各委員会は、次のように活動した

① 財務委員会

毎月財務関連収支の確認を行い、4 半期毎に収支予算の執行状況を点検した。2021 年度の事業実施状況及び収支状況等を評価・検討し、2022 年度収支予算書案を作成した。2022 年度収支予算案は、常務理事会を経て理事会に付議した。

公益目的支出計画実施報告書を作成し、常務理事会、理事会、評議員会の承認を経て内閣府へ提出した。

② 看護研究・院内看護研究・看護研修会・講演会助成委員会

各助成事業の申請書を点検し、申請状況を理事会に付議した。2021 年度はコロナ禍の影響により、予算枠の申請件数に達しなかった。

各助成事業の実績報告書等の提出状況を点検し、助成金が適切に使用されているかを確認のうえ、整理した。

看護研究選考特別委員会

再募集を行ったが、申請は 0 件であった。

③ 奨学資金・奨学金委員会

奨学資金・奨学金貸与申請書を点検し、申請状況を理事会に付議した。

規程改正により 2021 年度から申請書の提出は 6 月末までとなった。

奨学資金・奨学金の返還台帳に則り、返還状況を定期的に点検・把握し、個々人の残高を確認した。返還が滞っている返還対象者には、残高確認書を送付する際に遅滞している状況を提示して返還を促した。

④ 会報編集委員会

同方會會報第 56 号は、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症について病院・教育施設の活動、静岡県熱海市土石流災害の医療・救護活動について、コロナ禍で開催された東京オリンピック・パラリンピックにおける日赤東京都支部、医療・救護、ボランティア活動等について特集とした。

表紙は広島県県花、縮景園の「モミジ」、裏表紙に初めて医療施設・東京かつしか赤十字母子センターを登用し、2022 年 1 月発行・発送した。

また同方復刻版昭和 9 年第 7 巻 9 月号～12 月号を 2022 年 3 月発行・発送し

た。

⑤会員増強委員会

会費納入一覧表による納入動向の把握と支部・施設への働きかけを行い、会員及び賛助会員の確保に努めた。各支部・施設から提出された会員名簿の整理と保管を行った。コロナ禍のため、検討会議はweb会議で行い、委員会作業は集合で行った。会報送付先については、会費納入及び会員名簿を照合し作成するが、本年度は会費納入の遅れや集合での確認作業が不足しており、会報を追加発送するなどご迷惑をおかけした。来年度の対策課題とする。

⑥災害看護ボランティアシステム検討委員会

Web会議による、赤十字医療施設看護部長会役員会及び看護部長会にて災害看護ボランティアシステムづくりの概要とモデル事業の結果を報告し意見交換した。しかし新型コロナウイルス感染症が収束せず、同方会でも活動自粛が続いており、本社関係部署との検討は行っていない。従って全国に導入可能となるような活動は来年度に延期する。

⑦同方会のあゆみプロジェクト委員会

委員会を3回計画していたが、新型コロナウイルス拡大により開催しなかった。

11. 2021年度に寄せられた寄付金

寄付金総額 128,000 円